(平成23年2月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>2月期の野菜の入荷状況は、根菜類、葉菜類では、低温干ばつの影響から多くの品目で作柄不良がみられたが、入荷量は、品目により様々であった。根菜類では入荷減となる一方、葉菜類では、中央集散機能が発揮されたハクサイや下旬以降の気温上昇により生育が促進されたキャベツで順調な入荷状況となり入荷増となった。施設栽培を主とする果菜類では、多くの品目で作柄が良好で、入荷増となった。前年の入荷量が多かったトマトや低温の影響から生育の遅れたナスでは、入荷前年並であった。土物類では、夏期の高温の影響から作柄が悪かったものの、バレイショでは、前年の入荷量が少なく入荷増となり、タマネギでは、国外産の入荷増により入荷前年並みとなった。野菜全体の入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、根菜類、葉菜類、土物類で、入荷減や全国的な品薄状態などから単価高となった。一方、果菜類では、入荷増となった多くの品目で単価安となった。野菜全体では前年同期を5%上回った。</p> <p>品目別には、西洋ニンジン、ハクサイ、キャベツ、バレイショが入荷増の単価高、キュウリ、ピーマンが入荷増の単価安、タマネギが入荷前年並みの単価高、ナスが入荷、単価ともに前年並み、長ダイコン、ハウレンソウ、レタスが入荷減、トマトが入荷減の単価安となった。</p> <p>根菜類は、入荷が7%減少し、価格は32%高となった。 葉菜類は、入荷が3%増加し、価格は9%高となった。 果菜類は、入荷が5%増加し、価格は8%安となった。 土物類は、入荷が5%増加し、価格は10%高となった。</p>
果 実	<p>2月期の果実の入荷状況は、柑橘類で、本年が裏年にあたり入荷減となった。また、メロン類では、作付面積の減少から入荷減となった。一方、前年入荷の少なかったリンゴ類及び下旬以降の天候の回復により生育が促進されたイチゴ類では、入荷増となった。果実全体の入荷量は前年同期を14%下回った。</p> <p>価格は、柑橘類、メロン類では入荷減により単価高となった。リンゴ類、イチゴ類では、入荷増ながら柑橘類の供給が少なく需要が堅調で、リンゴ類では、単価前年並み、イチゴ類では、単価高となった。果実全体では前年同期を33%上回った。</p>

品目別には、イチゴが入荷増の単価高、ふじ、王林が入荷増の単価前年並み、ミカン、イヨカン、アールスが入荷減の単価高となった。

柑橘類は、入荷が28%減少し、価格は83%高となった。
リンゴ類は、入荷が4%増加し、価格は前年並みとなった。
イチゴ類は、入荷が7%増加し、価格は3%高となった。
メロン類は、入荷が11%減少し、価格は6%高となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】</p>	
<p>長ダイコン</p>	<p>徳島県，長崎県を中心に，神奈川県，鹿児島県，千葉県からの入荷。各産地とも低温，干ばつの影響から肥大が悪く，入荷量は，前年同期を17%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により前年同期を14%上回った。</p>
<p>西洋ニンジン</p>	<p>長崎県，鹿児島県を中心に，愛知県からの入荷。</p> <p>各産地とも低温，干ばつの影響から肥大が悪く，細物傾向での入荷となったものの，中央集散機能の発揮により，入荷量は，前年同期を27%上回った。</p> <p>価格は，全国的な品薄状態から前年同期を84%上回った。</p>
<p>【葉菜類】</p>	
<p>ハクサイ</p>	<p>兵庫県を中心に，茨城県，愛知県，群馬県からの入荷。</p> <p>各産地とも低温，干ばつの影響から作柄が悪かったものの，中央集散機能の発揮により，入荷量は，前年同期を9%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら，加工，業務用等の需要が堅調であったことから，前年同期を22%上回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>愛知県を中心に，兵庫県，滋賀県，大阪府，和歌山県からの入荷。各産地とも下旬以降の気温の上昇により生育が促進され大玉傾向での入荷となった。入荷量は，前年同期を10%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら加工，業務需要が堅調であったことから前年同期を16%上回った。</p>
<p>ホウレンソウ</p>	<p>京都府を中心に，徳島県，茨城県，滋賀県，長崎県からの入荷。各産地ともに低温，干ばつの影響により作柄が悪く，入荷量は前年同期を7%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により前年同期を18%上回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>兵庫県を中心に，徳島県，愛媛県，長崎県，岡山県からの入荷。各産地とも低温，干ばつの影響により小玉傾向での入荷となり，入荷量は前年同期を20%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により前年同期を32%上回った。</p>
<p>【果菜類】</p>	
<p>キュウリ</p>	<p>宮崎県を中心に，高知県，愛媛県，滋賀県，徳島県からの入荷。各産地とも曇天が続くことがなく，作柄が良好であったことから入荷量は，前年同期を23%上回った。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を14%下回った。</p>

ナス	<p>高知県を中心に、岡山県、徳島県からの入荷。 各産地とも低温の影響による生育の遅れから、入荷量は、入荷の少なかった前年同期並みとなった。 価格は、前年同期並みであった。</p>
トマト	<p>熊本県を中心に、福岡県、三重県、佐賀県、岐阜県からの入荷。 各産地とも曇天が続くことがなく、作柄が良好であったものの、前年の入荷量が多かったことから、入荷量は、前年同期を6%下回った。 価格は、入荷減ながら、高値であった前年同期を4%下回った。</p>
ピーマン	<p>宮崎県を中心に、高知県、鹿児島県からの入荷。 各産地とも曇天が続くことがなく、作柄が良好であったことから入荷量は、前年同期を19%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を13%下回った。</p>
<p>【土物類】 バレイショ (メーカー含む)</p>	<p>北海道を中心に、鹿児島県、長崎県からの入荷。 主力の北海道産は夏期の高温の影響により作柄が悪かったものの、前年の入荷量が少なかったことから、全体の入荷量は、前年同期を21%上回った。 価格は、全国的な品薄状態が続いており、前年同期を10%上回った。</p>
タマネギ	<p>北海道を中心に、兵庫県、アメリカ、静岡県、タイからの入荷。 主力の北海道産で夏期の高温の影響から作柄が悪く入荷減となった。国外産の入荷は著しく増加したものの全体では、前年同期並みであった。 価格は、全国的な品薄状態から前年同期を9%上回った。</p>
<p>【その他野菜】 生シイタケ</p>	<p>徳島県を中心に、和歌山県、広島県、岡山県、北海道からの入荷。多くの産地で低温の影響により発生が少なかったものの、本市場での北海道の取扱量の増加により、全体の入荷量は、前年同期並みであった。 価格は、不況による需要の低迷が続いており、前年同期を6%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
ミカン	<p>和歌山県を中心に、福岡県、大阪府、徳島県からの入荷。</p> <p>本年は裏年で着果数が少ない上に、各産地ともに夏期の高温、干ばつの影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を35%下回った。</p> <p>価格は、入荷減と食味良好であることから需要増となり、前年同期を118%上回った。</p>
イヨカン	<p>愛媛県からの入荷。</p> <p>12月、1月の寒波の影響から、着色の遅れがみられ、入荷量は、前年同期を34%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により前年同期を77%上回った。</p>
ふじ (サン含む)	<p>青森県を中心に、秋田県、岩手県からの入荷。</p> <p>各産地とも小玉傾向での入荷となったが、前年の入荷が少なかったことから、入荷量は前年同期を4%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ながら、柑橘類など競合果実の供給が少なく、需要が堅調で、高値であった前年同期並みとなった。</p>
王林	<p>青森県を中心に、岩手県からの入荷。</p> <p>各産地とも中玉、小玉中心の入荷となったが、前年の入荷が少なかったことから、入荷量は前年同期を22%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ながら、柑橘類など競合果実の供給が少なく、需要が堅調で、高値であった前年同期並みとなった。</p>
イチゴ	<p>熊本県を中心に、福岡県、大分県、佐賀県、長崎県からの入荷。</p> <p>各産地とも、下旬以降の好天と気温上昇から生育が促進され、入荷量は前年同期を7%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ながら、柑橘類など競合果実の供給が少なく、需要が堅調で、前年同期を3%上回った。</p>
アールスメロン	<p>静岡県、高知県からの入荷。</p> <p>各産地とも需要の低迷から作付面積を減らしており、入荷量は、前年同期を21%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により前年同期を15%上回った。</p>